

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 32週 > 感染性胃腸炎 - 過去5年間の同時期に比べて減少を続けているが定点当たり報告数はやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< コレラ > コレラの国内例の集積



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎 / 手足口病



速報
P.6

エコーウイルス13型および30型による無菌性髄膜炎の流行 - 広島県



海外感染症情報
P.7-8

ウエストナイルウイルス - 更新/患者数累計 / ブルンジでコレラの流行 - 更新 / コートジボアールでコレラの流行 - 更新 / エクアドルのデング熱・デング出血熱 / マダガスカルでのインフルエンザ流行 - 更新



感染症の話
P.9-13

エボラ出血熱
ウイルス性出血熱の一疾患で、血液や体液との接触感染によりヒトからヒトへ感染が拡大し、多数の死者を出す流行を起こす



読者のコーナー
P.14

A型肝炎について



グラフ総覧(32週)
P.15-21



32週のデータ
P.22-29



発生動向総覧

第32週コメント 8月15日集計分

全数報告の感染症

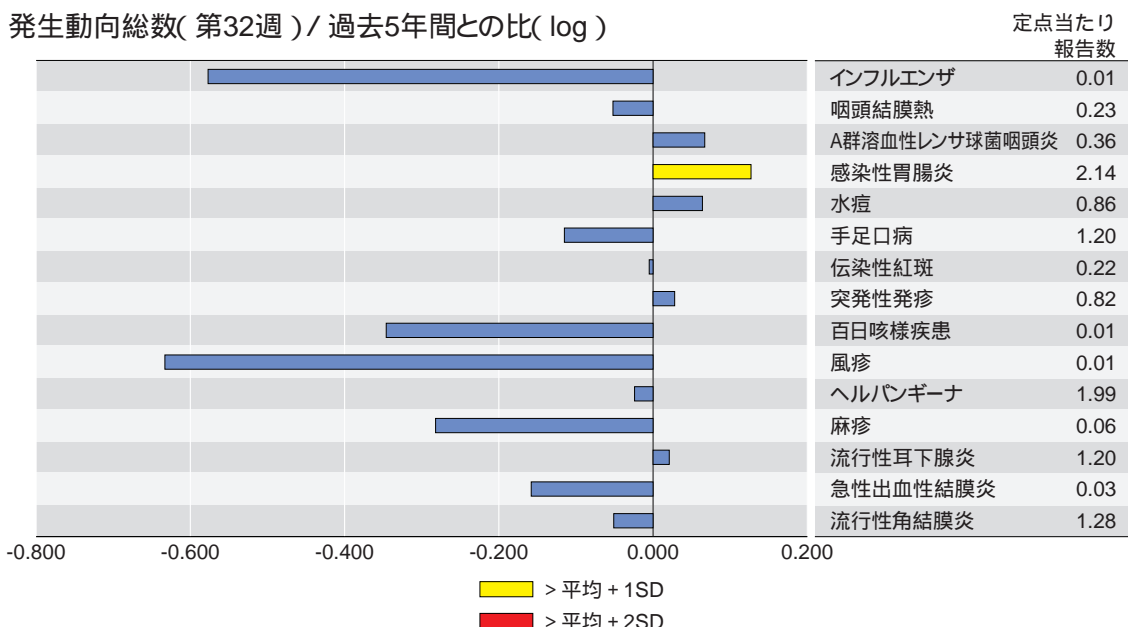
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ8例(推定感染地: 国内7例、不明1例) 細菌性赤痢9例(推定感染地: 国内3例、ベトナム2例、カンボジア、タイ、フィリピン、マレーシア各1例) 腸チフス2例(推定感染地: ともに国内)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症140例(うち有症者85例。長野県、宮城県、栃木県のO26/O157 集団発生事例を含む)
- 4類感染症: アメーバ赤痢8例(推定感染地: 国内3例、インドネシア1例、その他1例、不明3例) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症3例、ツツガムシ病1例 デング熱2例(推定感染地: タイ) 日本紅斑熱1例、破傷風2例(48歳、63歳) ライム病1例、レジオネラ症10例(宮崎県の温泉集団発生事例7例を含む) 急性ウイルス性肝炎6例
 - A型3例
 - B型2例(感染経路: ともに不明)
 - 原因ウイルス不明1例
- クロイツフェルト・ヤコブ病2例(ともに孤発性)
- 後天性免疫不全症候群9例(無症候性6例、AIDS 2例、その他1例)
 - 感染経路: 性的接触8例(異性間4例、同性間4例)
 - 不明1例
- 梅毒7例(早期顕症4例、無症候性3例)
- マラリア1例(卵形マラリア__推定感染地: インドネシア)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎は過去5年間の同時期と比べて減少を続けているが、定点当たり報告数はやや多く、都道府県別では宮崎県(5.8)、福井県(5.7)、鳥取県(5.4)からの報告数が引き続き多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は2週連続して減少したが、1999年から2001年の平均の2倍余りの報告数であり、都道府県別では岡山県(2.8)からの報告は依然として多い。

他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて特別多くなっているはいない。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数が上向きを呈しており、新潟県(1.2)からの報告が増えている。手足口病とヘルパンギーナの定点当たり報告数は夏のピークを越え、減少している。都道府県別では前者が鳥取県(6.0)、岡山県(4.1)、後者が青森県(7.0)、長野県(4.6)と報告の非常に多い県が残っている。流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎の定点当たり報告数はゆっくりと減少しているが、都道府県別で前者が岩手県(3.7)、鳥取県(3.3)からの報告が多く、後者は群馬県(7.7)、茨城県(5.0)からの報告数が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘は引き続き減少を続けている。

発生動向総数(第32週) / 過去5年間との比(log)

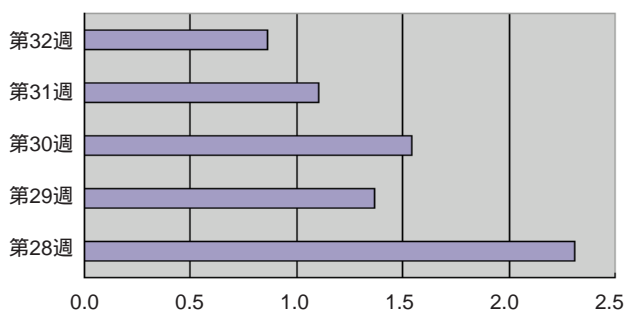


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

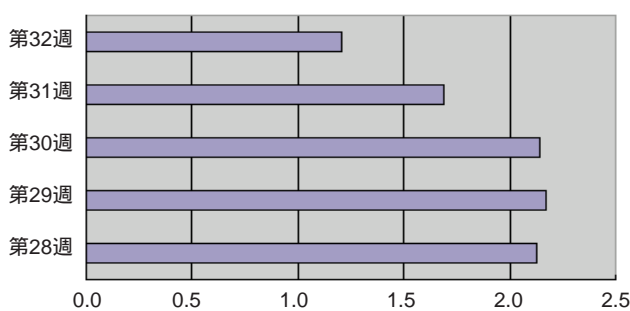
最近の注目疾患－5週間の動き

水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は前週に比べて減少している。咽頭結膜熱の報告数は前週に比べて増加している。

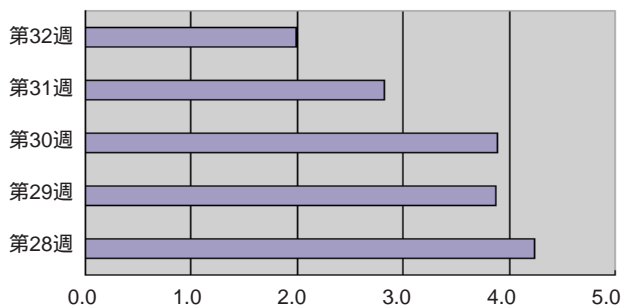
水痘



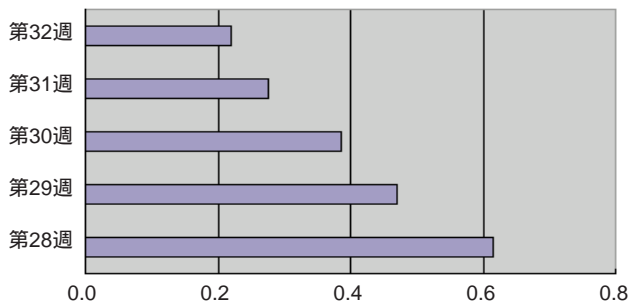
手足口病



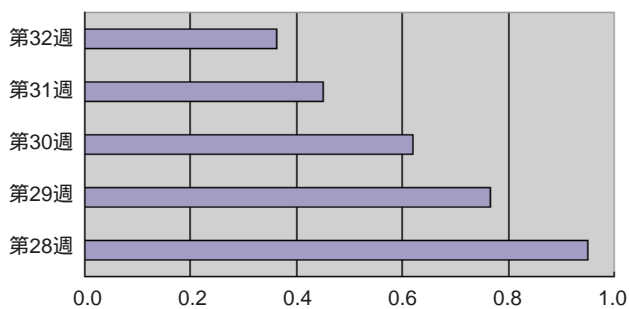
ヘルパンギーナ



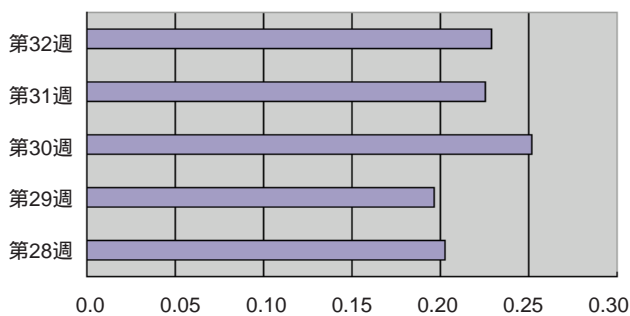
伝染性紅斑



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



咽頭結膜熱



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

コレラの国内例の集積

2002年第30週から32週にかけて(7月22日 ~ 8月11日)、国内感染例と考えられるコレラ患者が14名、東京都をはじめとする関東地域から報告されている。このうち、9名からはO1エルトル稲葉型のコレラ菌が分離されている。患者の年齢は50 ~ 70歳の高齢者の報告が多いが、20歳代の若年層からの報告もある。性別では男性が多い。14名の報告例のうち有症者は12名であり、症状の軽い症例も少なくない。

報告された患者は東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県などの関東地区に集積している。このうち8月に報告された12株については、パルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)パターンが一致している。コレラ菌については腸管出血性大腸菌などと異なり、遺伝子型の多様性が少なく特異性が低いため、PFGEパターンが一致したからといって、必ずしもこれら報告例が同一原因によるものと断言できないが、地理的、時間的な集積があることより、何らかの関連が疑われる。このうち1事例では飲食店を中心とした患者の発症が確認され、現在、追跡調査が行われている。

下痢症患者を診た場合、コレラ浸淫地域への渡航歴がなくとも、あるいは典型的な水様下痢(米のとぎ汁様)がなくとも、本疾患を鑑別すべき候補として念頭に置き、検査を考慮する必要があるであろう。実態の解明、原因の特定のためにはより多くのコレラ患者の情報が役に立つことが多いので、臨床医による積極的な診断と報告が望まれる。

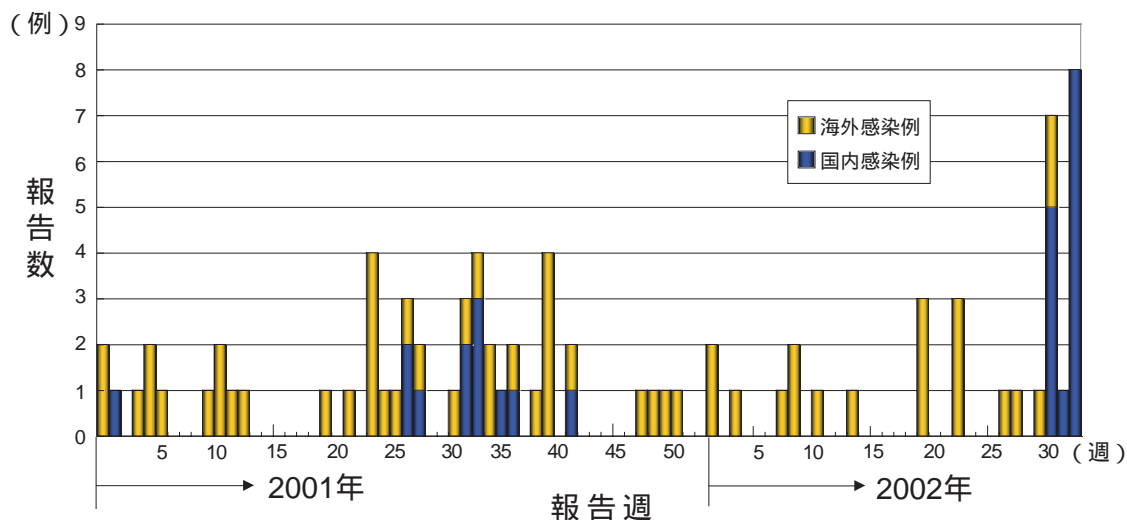


図:コレラ週別報告数(国内感染例、海外感染例)



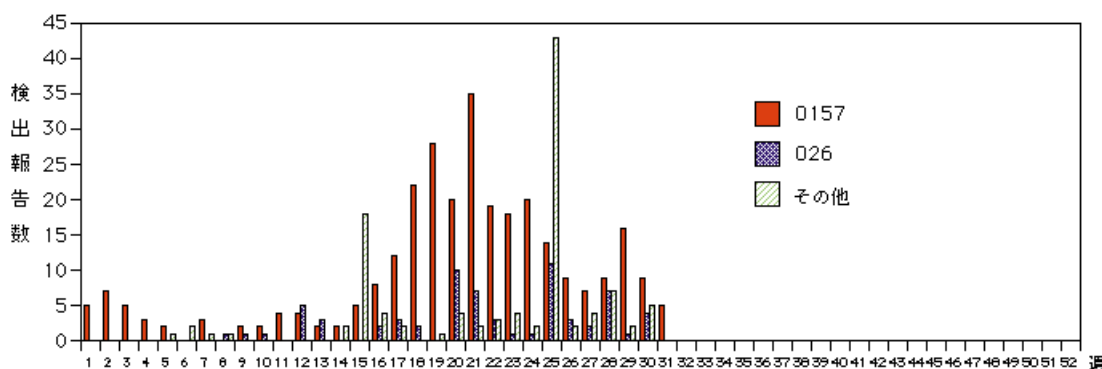
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年8月16日現在報告分)

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

検出総数は475件で、うちO157が297件(大阪府66、兵庫県36、佐賀県28など)、O26が68件(佐賀県14、富山県10、宮城県7など)、O111が61件(佐賀県52など)、O121が27件(佐賀県23など)、その他の血清型が22件である。最近では、O157が第31週に秋田県2、京都市1、島根県1、熊本市1の分離が報告されている。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2002年 (病原微生物検出情報：2002年8月16日現在報告数)



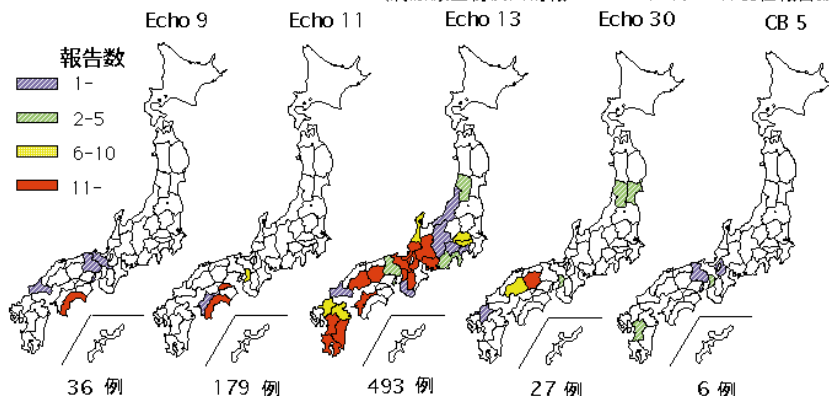
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

エコーウイルス(E)743件(13型493、11型179、9型36、30型27、14型3、18型3、16型2)、ムンプスウイルス36件、B群コクサッキーウイルス11件(5型6、2型3、3型1、4型1)、A群コクサッキーウイルス1件(5型)の分離が報告されている。E13は各地からの分離がさらに増加しており、現在までに、九州から東北にかけて27都府県(広島県132、福井県62、大阪府57など)から分離されている。

都道府県別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス検出状況、2002年 (病原微生物検出情報：2002年8月16日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



手足口病患者から分離されたウイルス 2002年

A群コクサッキーウイルス(CA)16型124件(川崎市22、島根県22、福島県20など)、エンテロウイルス71型10件(神奈川県3、熊本県3、埼玉県2、長野県、高知県各1)、CA6型3件(神奈川県2、東京都1)、CA4型2件(福岡市、大阪府)、エコーウイルス13型3件(東京都、奈良県、広島県)の分離が報告されている。



エコーウイルス13型および30型による無菌性髄膜炎の流行 - 広島県

広島県内では2002年4月下旬以降、エコーウイルス13型(E13)およびエコーウイルス30型(E30)を原因とする無菌性髄膜炎患者の発生が増加している。

E13については、昨年(2001年)9月に福島県で無菌性髄膜炎患者からの分離例が報告(IASR Vol.22, No.12 参照)されて以降、福井県や大阪市などからも相次いで分離例が報告されている(IASR Vol.23, No.5 & No.7参照)。広島県内においては、本年4月24日に無菌性髄膜炎患者より採取された髄液からE13が初めて分離された。それ以降、53名の患者(0歳～13歳)から同型ウイルスが分離されており(7月23日現在)、現在も無菌性髄膜炎患者の発生は増加傾向にある。

当所では、エンテロウイルスの分離には、BGM、HEp-2、RD-18S、FLおよびVero細胞を常用しているが、今回のE13はHEp-2とRD-18S細胞の両方で分離されている。それらの分離ウイルスは、いずれも抗E13単味血清(デンカ生研製)の20単位で中和され、同定は容易であった。また、一部の分離株(ON02-2R株およびCR02-10F株)について、CDCが開発したエンテロウイルスのVP1領域を増幅する汎エンテロプライマーセット(188-011)でRT-PCRを行い、その増幅産物についてダイレクトシークエンシング法で塩基配列を決定した。得られた塩基配列について、GenBankに登録されている遺伝子配列情報との相同性をBLASTにより検索した結果、ON02-2R株およびCR02-10F株は、いずれも2001年に福島県で分離されたE13株(GenBank Accession No. AB086858)と99%のホモロジーが認められた。このことは、昨年福島県で流行したE13株と同様のウイルスが広島県内でも流行していることを示唆していると考えられる。

広島県内住民のE13に対する免疫保有状況を知るために、2001年10月に県内住民から採取された血清171検体について、E13分離株(ON02-2R株)に対する中和抗体価を測定した。その結果、40歳以上の年齢層では20～65%が抗体を保有していたものの、それ以下の年齢層での抗体保有率は低く、特に14歳以下の年齢層では抗体を保有している者は認められなかった。このことは、先に東方らが報告した福井県での成績(IASR Vol.23, No.7参照)と一致している。今回の血清疫学調査結果および過去のウイルスサーベイランス結果から推察すると、広島県においては、少なくともここ最近の10年間以上はE13の流行がなく、無菌性髄膜炎の好発年齢とされる乳幼児や学童はE13に対する抗体を保有していないと考えられるので、今後も本ウイルスを原因とする無菌性髄膜炎の流行拡大が懸念される。

一方、E13に比べて数は少ないものの、E30を原因とする無菌性髄膜炎患者の発生も認められている。広島県内ではこれまでに、1989～1991年および1998年に、それぞれE30による無菌性髄膜炎の大きな流行を経験しているが、1999年以後はE30は1株も分離されていなかった。ところが、本年5月10日に無菌性髄膜炎患者から採取された髄液からE30が分離されて以降、現在までに7名の患者から同型ウイルスが分離されており、E13だけでなくE30の動向についても注意を払う必要があると考えている。なお、E30の分離に関しては、E13の場合と同様に、HEp-2とRD-18S細胞の両方でウイルスが分離されており、それらの分離株はEP95とエンテロ混合血清、およびE30単味血清(いずれもデンカ生研製)の使用で容易に同定された。

広島県保健環境センター

高尾信一 島津幸枝 福田伸治 桑山 勝 宮崎佳都夫

(IASR2002年8月号掲載記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ウエストナイルウイルス - 更新/患者数累計*

CDC/Media Relations

州	確定および 疑い症例数	死亡
アラバマ	5	
ワシントンDC	1	
フロリダ	1	
イリノイ	9	1
インディアナ	1	
ルイジアナ	147	8
マサチューセッツ	1	
ミシシッピ	55	2
ミズーリ	5	
ニューヨーク	1	
オハイオ	2	
テキサス	25	1
合計	253	12

*CDC/Arbonetへの報告、または州、地域当局との直接連絡による、2002年8月20日現在の2002年累計(<http://www.cdc.gov/od/oc/media/wncount.htm>)

ウエストナイルウイルス最新情報

<http://www.cdc.gov/od/oc/media/wnupdate.htm>

各州へのリンク

http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/city_states.htm

ブルンジでコレラの流行 - 更新

WHO/CSR 2002年8月14日

2002年8月5日までに保健省は、2002年6月17日に始まったコレラの流行で、8名の死亡者を含む577名の患者が発生したことを報告した。患者の大部分はBujumbura Ruraleで発生している。流行は鎮静化に向かっている模様である。

コートジボアールでコレラの流行 - 更新

WHO/CSR 2002年8月13日

2002年7月14日までに保健省は、今年の初めから19名の死亡者を含む581名のコレラ患者(致命率3.27%)が発生したことを報告した。2002年7月から患者数の著明な増加が見られ、国内の全11地区(Abidjan, Adzope, Bondoukou, Boundiali, Dimbokro, Ferkessedougou, Korhogo, Man, San Pedro, Seguela, Toouba)で依然流行が続いている。Abidjanにあるパスツール研究所で *Vibrio cholerae* エルトール型が確認された。

地域保健当局は流行を征圧するために対策を行っている。同国のWHO事務所は、医薬品を供給することでこの対策の支援をした。

エクアドルのデング熱・デング出血熱

WHO/CSR 2002年8月16日

2002年8月2日現在、デング熱疑い患者5,833名が発生し、そのうち344名が検査で確定診断されたと保健省が報告した。158名のデング出血熱疑い患者が発生し、そのうち11名が確定診断された。1月に2地区でデングウイルス2型が報告されたが、広く流行している株はデングウイルス3型である。

ガラパゴス諸島では、現在4名が検査で確定診断されている。これは、ガラパゴス諸島で初めてのデング熱の報告である。保健省は、流行の調査や昆虫学的な研究を行うために調査団を派遣した。

マダガスカルでのインフルエンザ流行 - 更新

WHO/CSR 2002年8月16日

2002年8月13日現在、インフルエンザ様疾患が全国の111地区のうちの6地区で流行しており、保健省は444名の死亡を含む13,300名の患者を報告した。

Global Outbreak Alert and Response Networkの国際チームはマダガスカルのアンタナナリボに8月14日に到着し、保健省などと会議を行った。その対策チームは、保健省と協力してサーベイランスシステムを構築し、それによって保健省が特定の地区で疾患の動向を評価する予定である。対策チームは来週中に、重症化や死亡の危険因子を決定するための調査を企画実行する予定である。マダガスカルのパスツール研究所は、この流行の原因ウイルスのさらに詳細な特徴を調べるために、検体を分析している。



感染症の話

エボラ出血熱

エボラ出血熱はエボラウイルスによる急性熱性疾患であり、ラッサ熱、マールブルグ病、クリミア・コンゴ出血熱とともに、ウイルス性出血熱(Viral Hemorrhagic Fever : VHF)の一疾患である。最も重要な特徴は、血液や体液との接触によりヒトからヒトへ感染が拡大し、多数の死者を出す流行を起こすことであり、しばしば注目を浴びている。2000年10月にウガンダ北方のグルで流行があったときに日本人専門家が派遣されたことは耳新しい。自然界の宿主が今もって不明なことから、今後の発生が危惧される。(表1)

表1. ウイルス性出血熱と出血を生ずるウイルス病

疾患名(登場年)	ウイルス(科)	自然宿主と感染経路	分布地域
ラッサ熱(1969)	ラッサ(アレナ)	マストミス ヒト ヒト;まれに院内感染	西アフリカ一帯
エボラ出血熱(1976)	エボラ(フィロ)	不明 ヒト ヒト;不十分な医療用具による看護、介護での感染	アフリカ中央部
マールブルグ病(1967)	マールブルグ(フィロ)	不明 ヒト ヒト/サル ヒト ヒト	アフリカ中東南部
クリミア・コンゴ出血熱(1945,1956)	クリミア・コンゴ(ブニヤ)	哺乳動物 ダニ ヒト ヒト;しばしば院内感染	アフリカ全土、中近東、中央アジア、インド亜大陸、東欧、中国
南米出血熱	フニン、マチュボ、グアナリト、サヒア(アレナ)	アルゼンチン出血熱、ポリビア出血熱、ベネズエラ出血熱、ブラジル出血熱 野ネズミ ヒト	南米
黄熱	黄熱(フラビ)	蚊 ヒト	アフリカ、中南米
腎症候性出血熱	ハンタ(ブニヤ)	野ネズミ ヒト	アジア、欧州
ハンタウイルス肺症候群	ハンタ(ブニヤ)	野ネズミ ヒト	米国
リフトバレー熱	リフトバレー(ブニヤ)	蚊 ヒト	アフリカ全域、中近東
デング出血熱	デング(フラビ)	蚊 ヒト	東南アジア、インド、中南米

VHF : クラス4病原体、ヒトからヒトへの感染が見られる。 クラス4病原体、ヒト ヒト感染はまれ。クラス3病原体 (CDCでは、ハンタウイルス肺症候群についてはクラス4扱いとしている。)

疫学

エボラ出血熱は現在まで、コートジボアールを除けばアフリカの中央部でのみ発生している。ラッサ熱では自然宿主がマストミスであることがわかっているが、エボラ出血熱の場合は患者の発生があるたびに周辺で生態調査が行われているにもかかわらず、自然宿主の特定には至っていない。1995年のキクウイトでの発生の際に、ヒトでの発生が終焉した後、昆虫、ネズミ類、サル類等の血液、組織等5万検体にわたり調査されたが、エボラウイルスのウイルスも遺伝子も抗体も見つかっていない。ただし、コウモリ的一种ではウイルスを接種しても病気を発症しなかったことから、自然宿主ではないかと疑われている。ヒトでの発生に係るエピソードは過去12回ある(表2、図1)。表中の6と9は宿主についてさかのぼった調査と南アフリカに移動したヒトでの発生で、6ではウイルスは分離されてはならず抗体調査のみ、9では南アフリカの自然界にウイルスが存在していたわけではなく、非流行地への感染者の侵入である。その後、2000年から2001年にはウガンダで、さらに2001年から2002年にはガボンとコンゴ共和国の国境地帯での流行が報告されている。

表2. エボラ出血熱の発生

発生年	国	地域	感染経路	患者数	死亡者数	致死率
1) 1976年	スーダン	南方地域(ヌザラ、マリディ)	不明	284	151	53%
2) 1976年	ザイール	北方地域(ヤンブク)	不明	318	280	88%
3) 1977年	ザイール	北方地域(タンダラ)	不明	1	1	100%
4) 1979年	スーダン	南方地域(ヤンピオ)	不明	34	22	65%
5) 1994年	コートジボアール	西方地域(タイ)	チンパンジー	1	0	0%
6) 1994年	ガボン	マココウ	不明	49	29	59%
7) 1995年	ザイール	中央地域(キクウイト)	不明	315	256	81%
8) 1996年	ガボン	北方地域(オゴウエ)	チンパンジー	31	21	68%
9) 1996年	南アフリカ	ヨハネスバーグ	ガボンの患者から	2	1	50%
10) 1996 ~ 1997年	ガボン	リーブルビルほか	不明	60	45	75%
11) 2000 ~ 2001年	ウガンダ	北方地域(グルほか)	不明	425	225	53%
12) 2001 ~ 2002年	ガボン、コンゴ	東方地域(メカンボほか)	不明(ゴリラ?)	97	73	75%

スーダン(1976、1979): 1976年6月末、スーダン南部のヌザラ、マリディを中心に284名が感染し、151名(53%)が死亡した。ヌザラの町の綿工場で倉庫番の男性が発症し、次々と家族、医療関係者等に伝播したもので、さらに独立した2例から家族内、院内感染として感染拡大が生じた。1979年にはヤンピオで5家族34名が発症し、22名が死亡した。

ザイール(現コンゴ民主共和国)(1976、1977、1995): 1976年のスーダンでの発生から2カ月後、北部のヤンブク教会病院を舞台として大発生が起こった。病院とそこに出入りしていた患者と家族、医療関係者の間で感染拡大が生じたものである。初めは、ヤンブク教会学校の教師(44歳男性)がマラリアの疑いで注射を受け、その同じ注射器で他の注射を受けた9人全員が感染し、全員死亡した。それらの患者との接触、医療を通じ伝播が起こった。マスク、手袋、ガウン、注射器等の基本的不足による。約2カ月の間に318名の患者中280名(88%)が死亡した。結局、CDC、WHO、ベルギーのチームが入り、終焉した。スーダンの例もヤンブクの例も、ヒトからヒトへの伝播は急性期の患者との直接接触によるもので、空気感染(airborne)の可能性はないとされている。ヤンブクでは病院のスタッフ17名中13名が発症し、11名が死亡し、病院は閉鎖された。この時の疫学調査は最も密度の濃いもので、ヤンブク、ヤンドンギ等周辺部落の各戸構成員全てが詳細に(感染抗体保有、発症等)調べられた。翌年、近くのタンダラで9歳の女兒が発症し死亡したが、"もしや"ということもあり誰も接触せず、他に感染者は生じなかった。それから18年後の1995年、遠く離れたザイール中央部のキクウイト

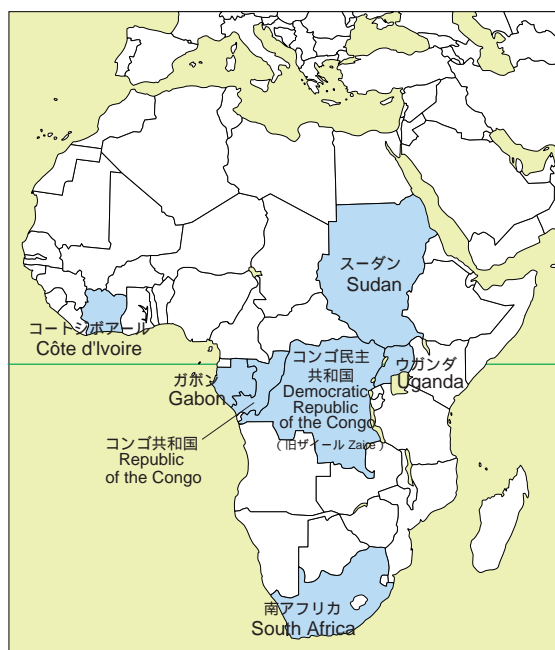


図1. エボラ出血熱発生の分布

で、町の総合病院を中心に4月初め患者が発生した。244名の死亡者中100名以上は医療関係者であった。この際もガウン、手袋、長靴、注射器等の不足が感染拡大の最大の理由であった。発生から1か月後に情報が米国に入り、その10日後エボラウイルスによることが判明し、直ちに米、WHO、ベルギー等のチームが入り、6月20日に終焉した。なお、このときに分離されたウイルスは、19年前のヤンプクのそれとほとんど同じ遺伝子配列を示していた。

1994年コートジボアール、1996年ガボン:この2カ所での発生にはいずれもチンパンジーが関与しているが、チンパンジーはヒトと同様終末宿主であり、自然界の宿主ではないとされている。前者は、死亡したチンパンジーの解剖に携わっていたスイス人女性が感染したもので、後者では、森で死亡していたチンパンジーに子供たちが接触し、感染発症したことが発端である。1996年10月のガボンでの発生では、原因・経路は不明である。ヒトの抗体保有調査は発生があったときその周辺でなされてきたが、不顕性感染者が数%(男女とも)いることもわかっている。

2000 ~ 2001年ウガンダ:スーダンとの国境に接する北方地域のグルで10月に始まり、南のマシンデイ(27例)や遠く離れたムバララ(5名)でも発生し、計425名の患者と225名の死亡者(53%)を出して過去最大の流行となった。他地域への感染の拡大は、グル地区で行われた葬式に参加した感染者や家族内感染者が国内移動したことによる。死者の清拭や、葬儀の際の死者とのお別れの儀式による血液や体液との接触が感染拡大の原因である。そのため女性感染者が269名(63.3%)を占めたが、患者の平均年齢は27歳で、最低年齢は3日齢、最高年齢は72歳であった。また、しばしば問題となる医療従事者の感染は29例であった。この流行時に活躍した現地のマチュウス医師は、エボラ出血熱に感染した同僚から感染し、死亡した。この場合、飛沫感染が疑われている。この時のアウトブレイク時では、WHOを主体に全世界から23のチーム、104名の人材が派遣され、国際的な対策チームが組織され対応した。日本人専門家は計5名が参加し、臨床例の対応にあたった(IASR 2001, vol 22, 57-59; <http://idsc.nih.gov.jp/iasr/22/253/fr2531.html>)。

2001 ~ 2002年ガボンとコンゴ共和国:2001年12月にガボンとコンゴ共和国の国境地帯で発生し、2002年4月までにガボンで65例(死亡者数53名)、コンゴで32名(死亡者数20名)の流行があった。致死率は両方で75%になる。

病原体

エボラウイルスはマールブルグウイルスと共にフィロウイルス科(*Filoviridae*)に属する。短径が80 ~ 100nm、長径が700 ~ 1,500nmで、U字状、ひも状、ぜんまい状等多形性を示す(図2)が、組織内では棒状を示し、700nm前後のサイズがもっとも感染性が高い。スーダン株とザイール株との間には生物学的にかなり差がある。たとえば、*in vitro*での細胞培養(Vero細胞)で、スーダン株はあまり強い変性を示さないのに対し、ザイール株は急速に細胞を変性・壊死にいたらしめる。また、*in vivo*でもマウス、サル類での感染性は大きく異なる。ザイール株は極めて強い病原性を示し、速やかに死に至らしめる。病原体は他のVHFウイルスと同様にレベル4に分類されており、ウイルス増殖を伴う作業には最高度安全実験施設(BSL-4あるいはP4)が必要である。フィリピンでカニクイサルが発症したときの原因であるレ斯顿株は、ヒトへの病原性はない。

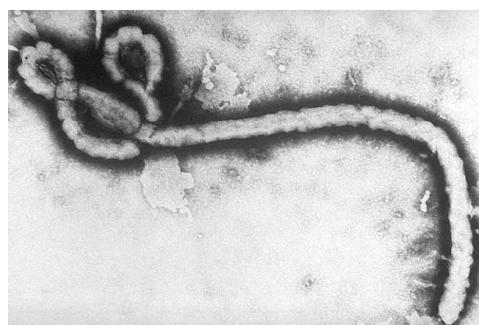


図2.(米国CDC Fred Murphy博士より)

わが国では国立感染症研究所村山分室にキャビネット式P4施設が19年前に設置されたが、現在まで使用されていない。世界では宇宙服式、キャビネット式を含めて10カ所以上で稼働中である。仏パスツール研究所は2年前より現地での連続的分離作業を行うため、ガボンの現地(密林の)にP4施設をつくり稼働中である。

臨床症状

発症は突発的で進行も早い。潜伏期は2～21日で、汚染注射器を通した感染では早く、接触感染では長い。インフルエンザ様症状が進行し、重篤化する。発熱、頭痛が100%に、腹痛、咽頭痛、筋肉痛、胸部痛が80%に、出血(吐血、口腔歯肉、消化管)が70%にみられる。出血は死亡例の大部分でみられる。2000年のウガンダでの流行では上記症状に加えて、衰弱のほか下痢等の消化器症状が目立ち、出血症状は10%以下であった。肝臓でのウイルス増殖(図3)による肝腫脹により、右季肋部の圧痛や叩打痛が特徴的である。症状として“ エボラ出血熱に特徴的なもの ”はない。

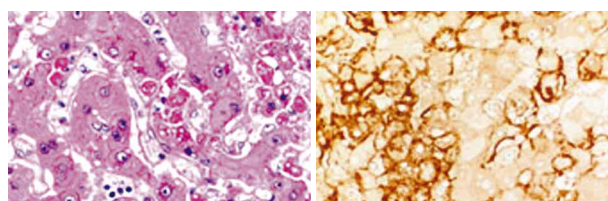


図3. エボラウイルス実験感染サルの肝臓
肝細胞内に好酸性封入体が見られ(左) 免疫組織化学(右)でエボラウイルス抗原が認められる (Drs McCormick JB & Fisher-Hoch SPIによる実験感染サル組織を用いて、抗エボラGP抗体でウイルス抗原を検出した)

病原診断

迅速診断としてはウイルスゲノムをRT-PCR法等で検出する。そのほか、血中抗原や抗体をELISA法で検出する。RT-PCR法では血中抗原測定より1日早く検出が可能である。抗体検出は免疫蛍光法でも行える。血液、体液等からウイルスを分離するのがもっとも確実であるが、現地では困難である。死亡者では頸部等の小さな皮膚片をパンチ生検し、ホルマリン固定材料で免疫組織化学的にウイルス抗原検出が行われる。国立感染症研究所村山分室の外來性ウイルス室で検査が可能である。

治療・予防

感染予防のためのワクチンはない。治療は対症療法のみである。抗体が検出されるようになると急速に回復に向かう。感染者や検体と接触した人のみに対応すれば十分で、疑い患者の血液等を素手で触れないこと(手袋を必ず使用する)が重要である。空気感染はないとされているが、飛沫感染は否定できない。

感染症法におけるエボラ出血熱の取扱い

エボラ出血熱は1類感染症に定められており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る。疑似症患者、患者、無症状病原体保有者のいずれであっても届け出は必要である。報告のための基準は、以下の通りとなっている。

当該疾患を疑う症状や所見があり、かつ、以下の方法によって病原体診断または血清学的診断がなされたもの

(材料)血液、血清、剖検材料及び生剖検皮膚(ホルマリン固定)など

・病原体の検出

例、ウイルスの分離など

- ・抗原の検出
例、ELISA法など
 - ・病原体のゲノムの検出
例、RT-PCR法など
 - ・血清抗体の検出
例、IgMあるいはIgGの免疫蛍光法あるいはELISA法による検出など
- 当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの
(病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものを含まない)
疑似症の診断
臨床的特徴に合致し、以下の疾患の鑑別診断がなされたもの
(鑑別診断)他のウイルス性出血熱、チフス、赤痢、マラリア、デング熱、黄熱等

《備考》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

学校保健法におけるエボラ出血熱の取扱い

エボラ出血熱は学校において予防すべき伝染病第1種に定められており、治癒するまで出席停止となる。

(国立感染症研究所感染病理部 佐多徹太郎)



読者のコーナー

Q: 輸入貝からA型肝炎のウイルスが検出されたと聞きましたが、普通の調理で感染の危険はありますか。 (東京都主婦)

A型肝炎について

食品からの感染を防ぐためには、貝類の生食を避け、沸騰させるなど中心部まで十分な加熱調理を行うことでウイルスを死滅させることが重要です。大型の貝類では、調理時に中心部分まで十分に加熱するように気を付けることが大切です。

わが国での血清学的調査からは、40～50歳代以下の年齢ではほとんどの人が抗体を保有していませんので、さらなる予防策としては、A型肝炎ワクチンの接種により十分な免疫を賦与することが望まれます。

急性A型肝炎は、比較的熱や酸にも強いA型肝炎ウイルスにより主として経口感染によって感染します。海外で感染する人もみられており、海外では生水、生ものには注意が必要です。

我が国での報告では渡航歴の無い国内感染例が全体の8割以上を占めていますが、潜伏期が平均4週間と長いために、感染経路を特定することが難しいのが現状です。

【参考】平成13年度厚生労働省生活安全総合研究事業「食品中の微生物汚染状況の把握と安全性についての研究」(主任研究者 西尾 治 感染症情報センター第6室室長)では、従来のELISA法やRT-PCRだけでなく、迅速に輸入魚介類の微生物学的安全性を確保するため、新たな検査法の有効性を検討し、同検査法を用いて国産281件、輸入240件の二枚貝の調査を行ったところ、東南アジアからの輸入二枚貝240件中3件(ハマグリ2件とウチムラサキ貝(大アサリ)1件)からA型肝炎ウイルスがPCR法(RT-PCR法およびリアルタイムPCR法)により検出された(検出率1.25%)。

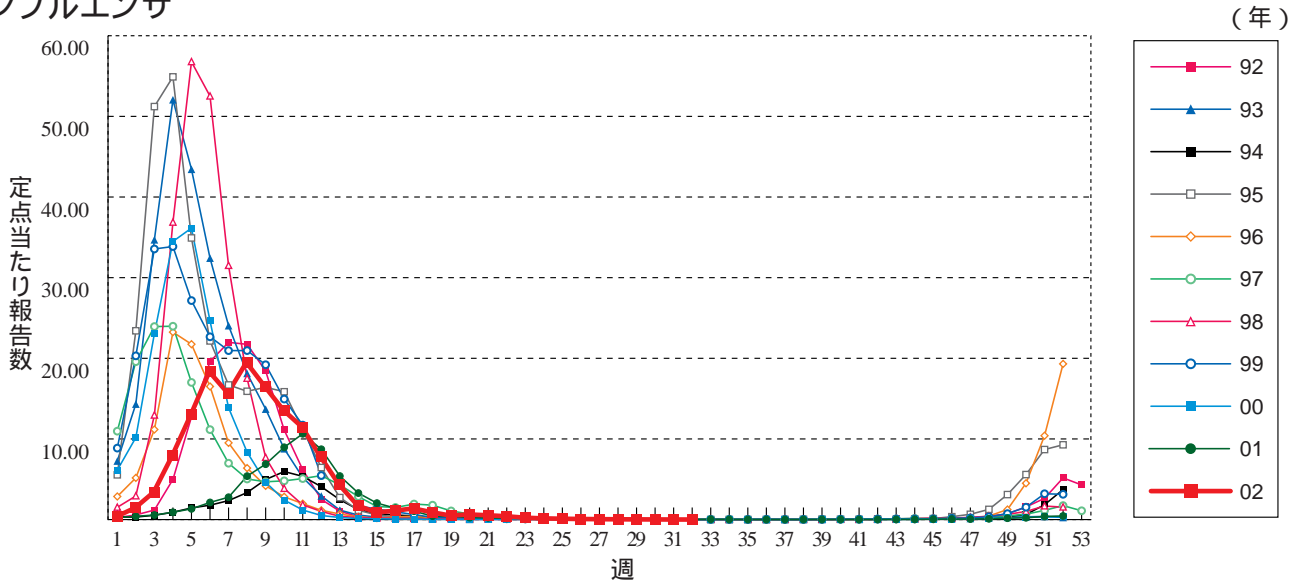
(国立感染症研究所感染症情報センター)

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

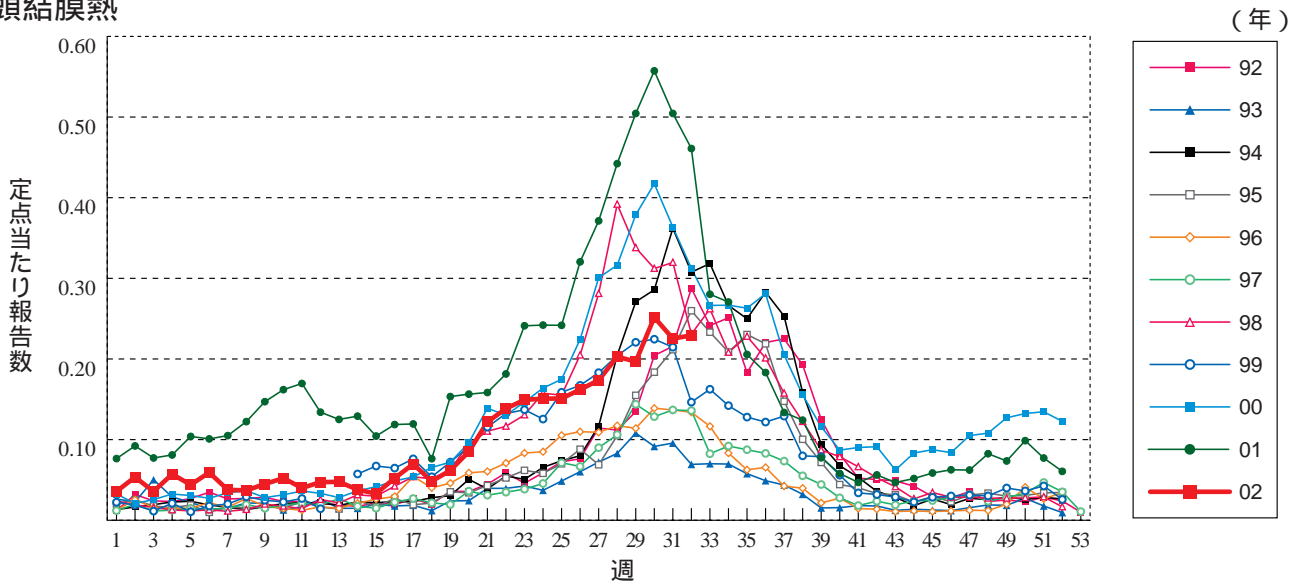
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(32週)

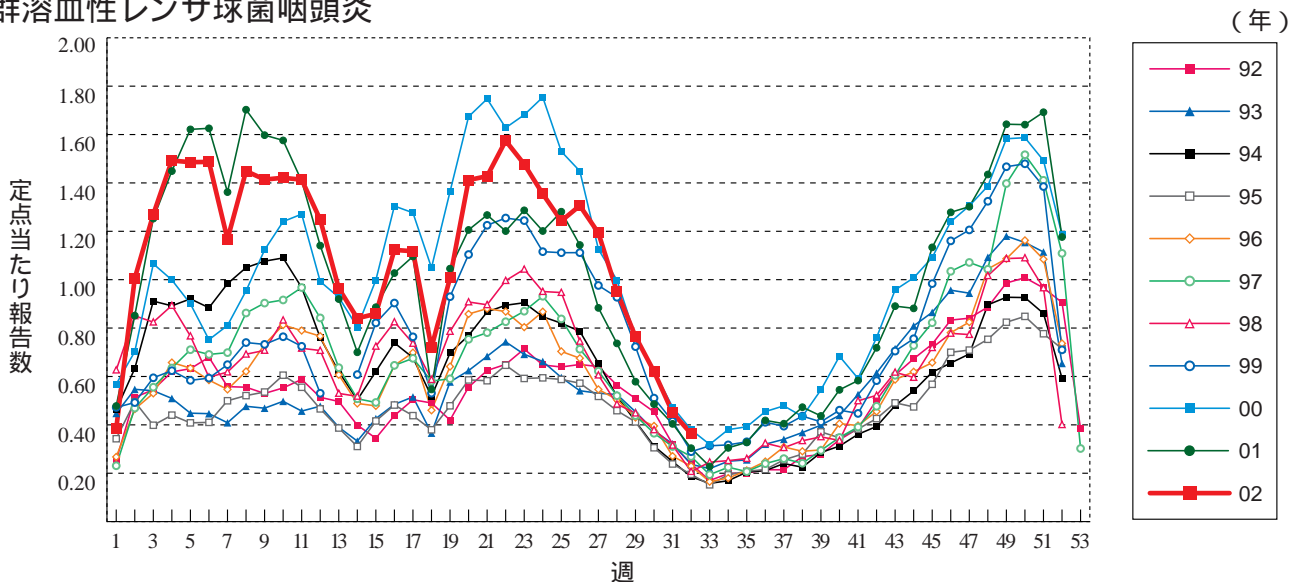
インフルエンザ



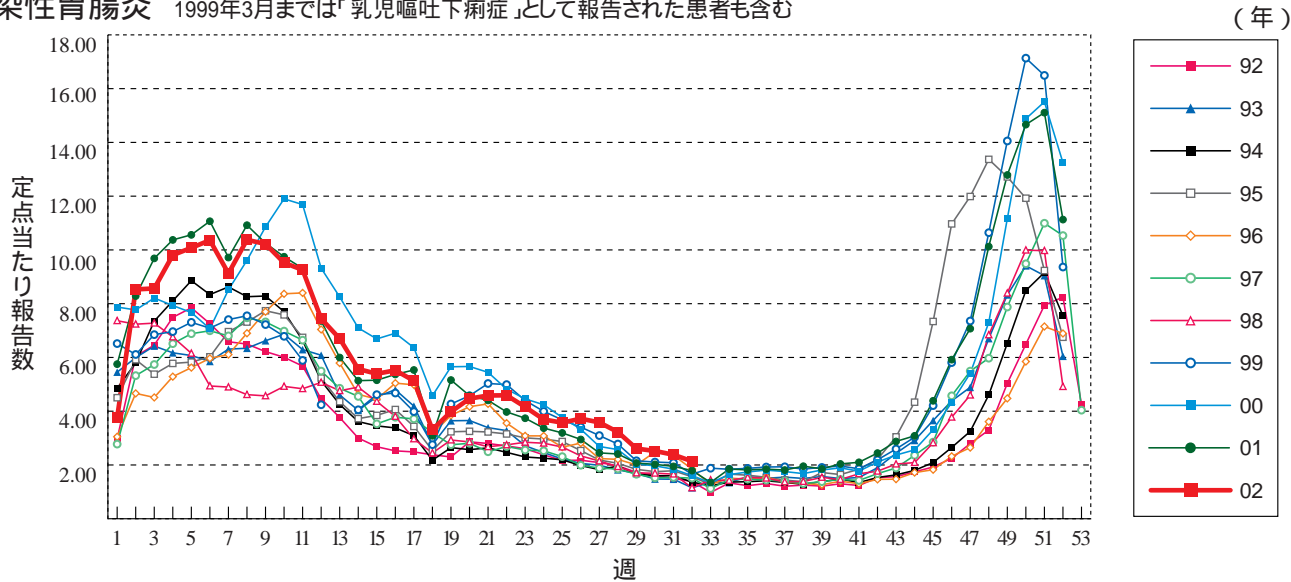
咽頭結膜熱



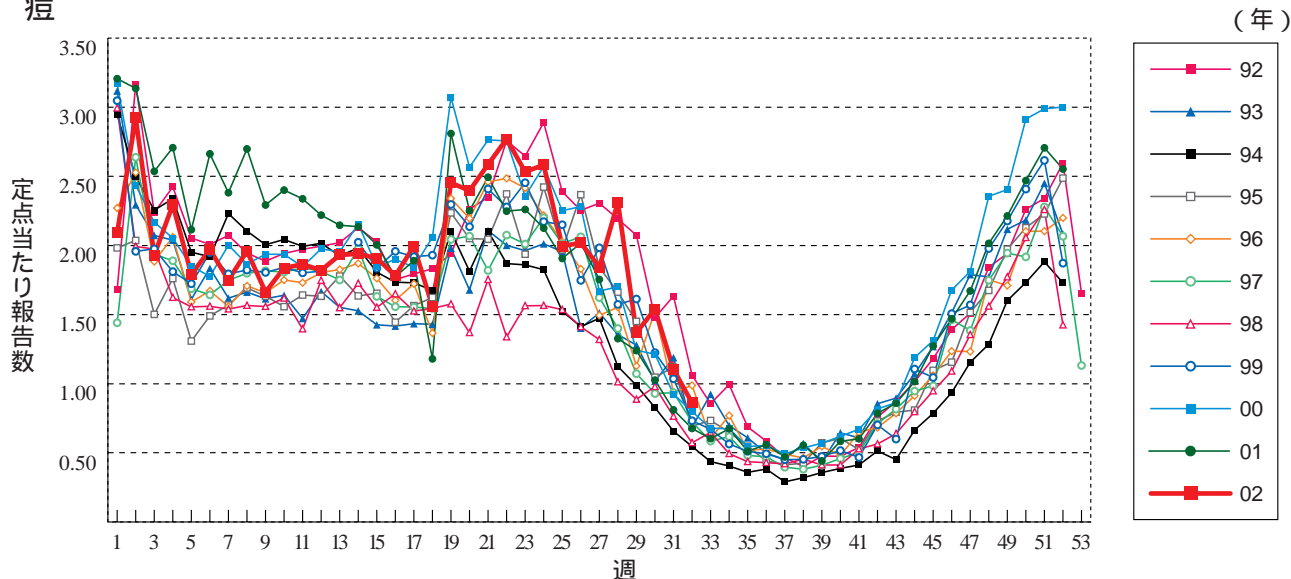
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



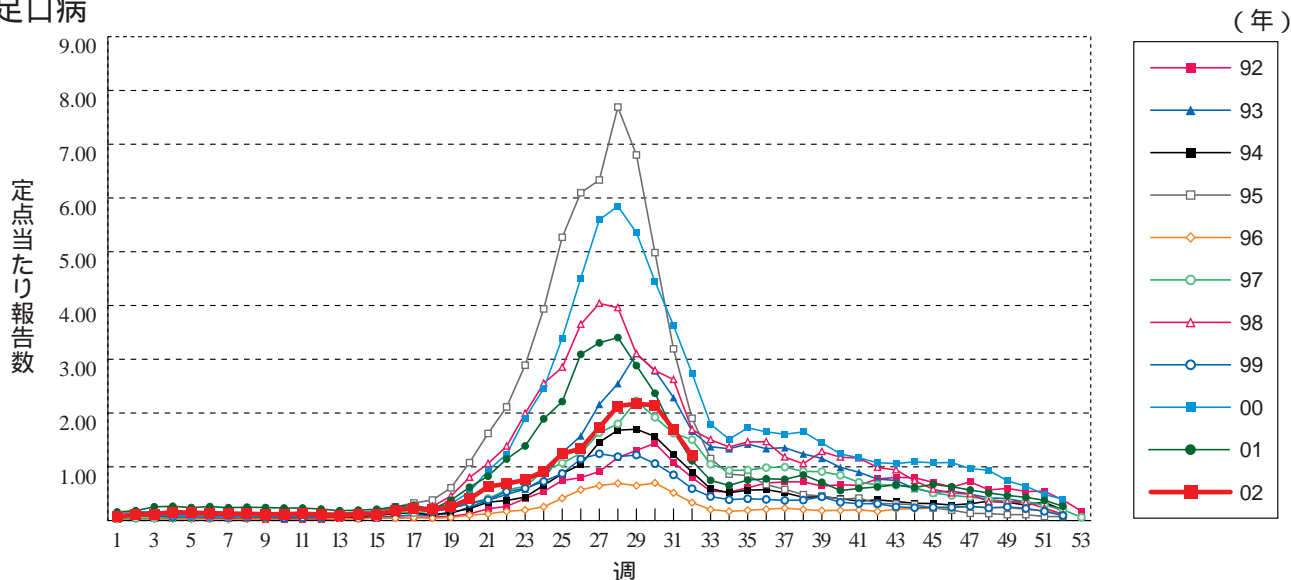
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



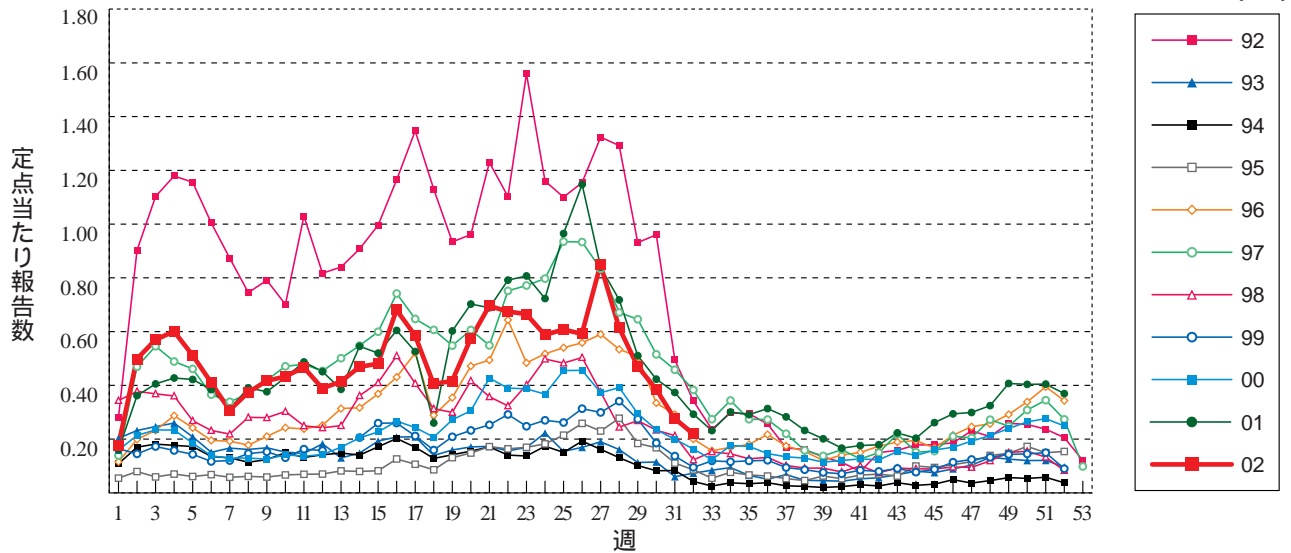
水痘



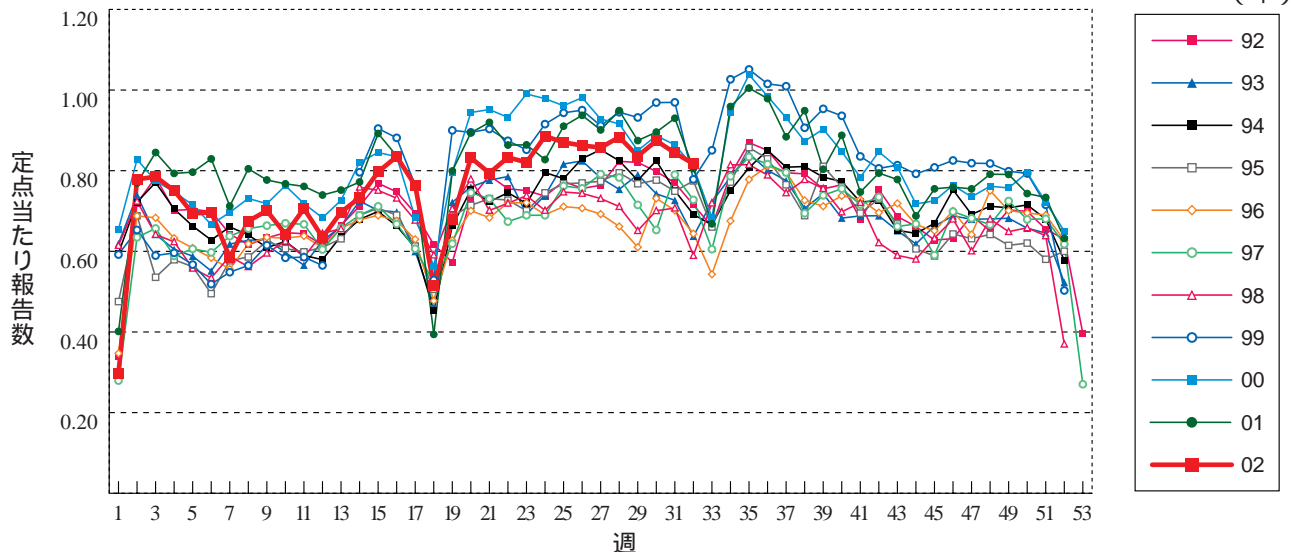
手足口病



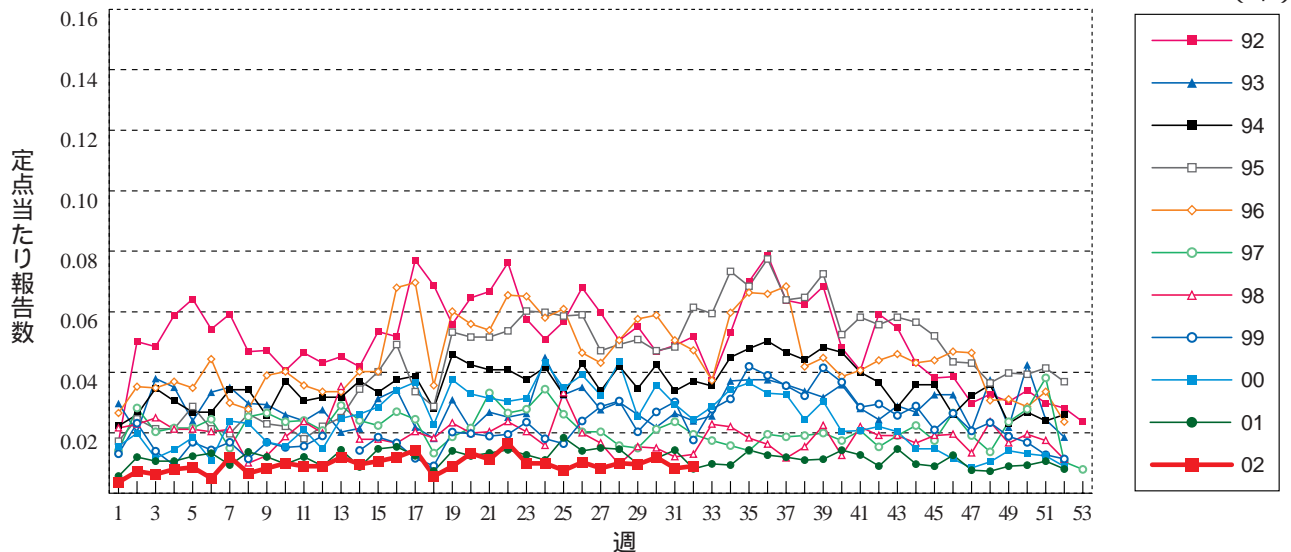
伝染性紅斑



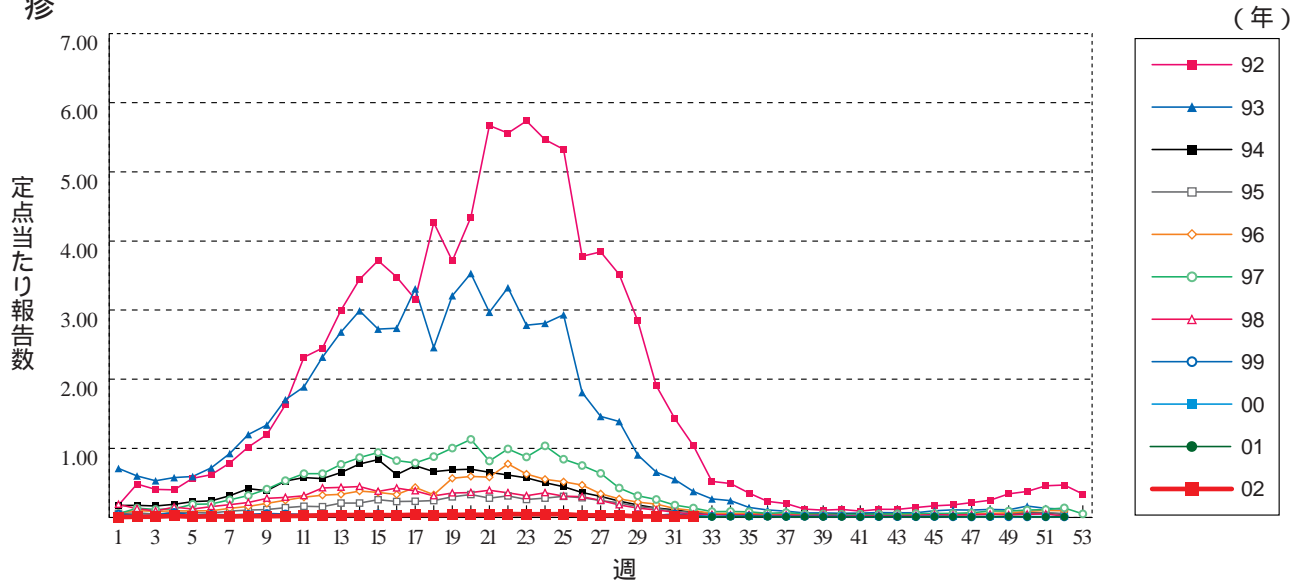
突発性発疹



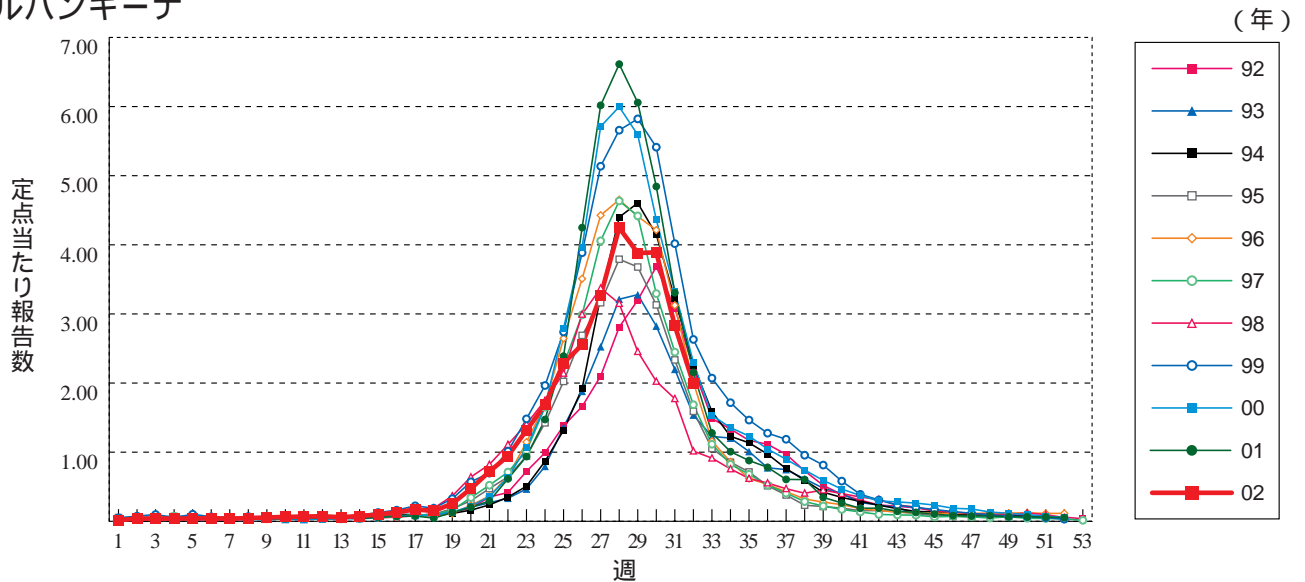
百日咳



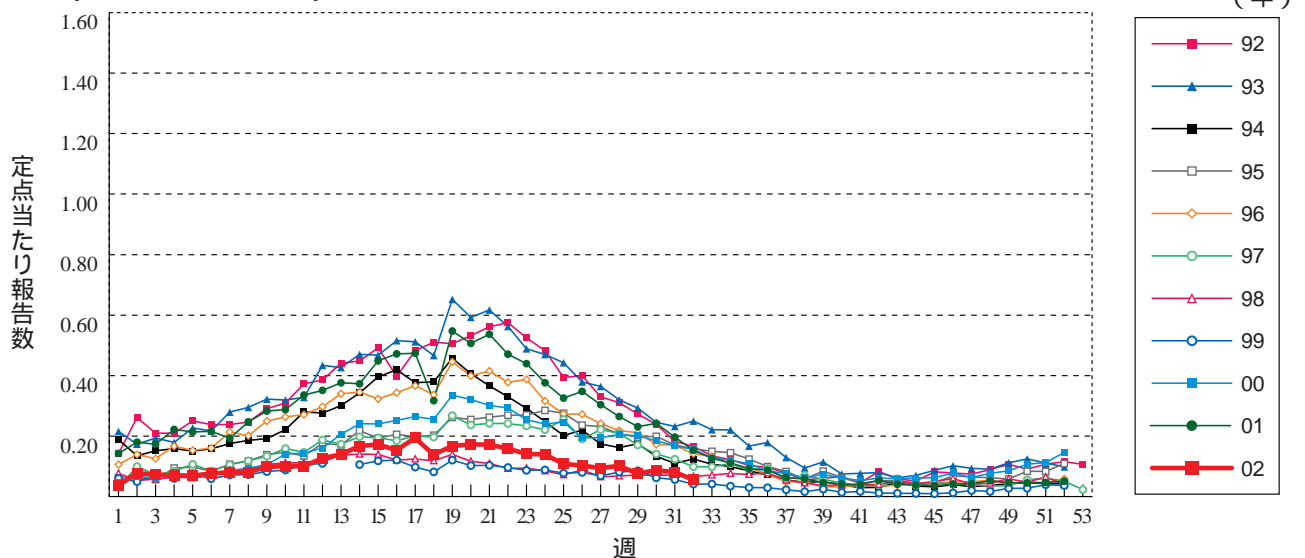
風 疹



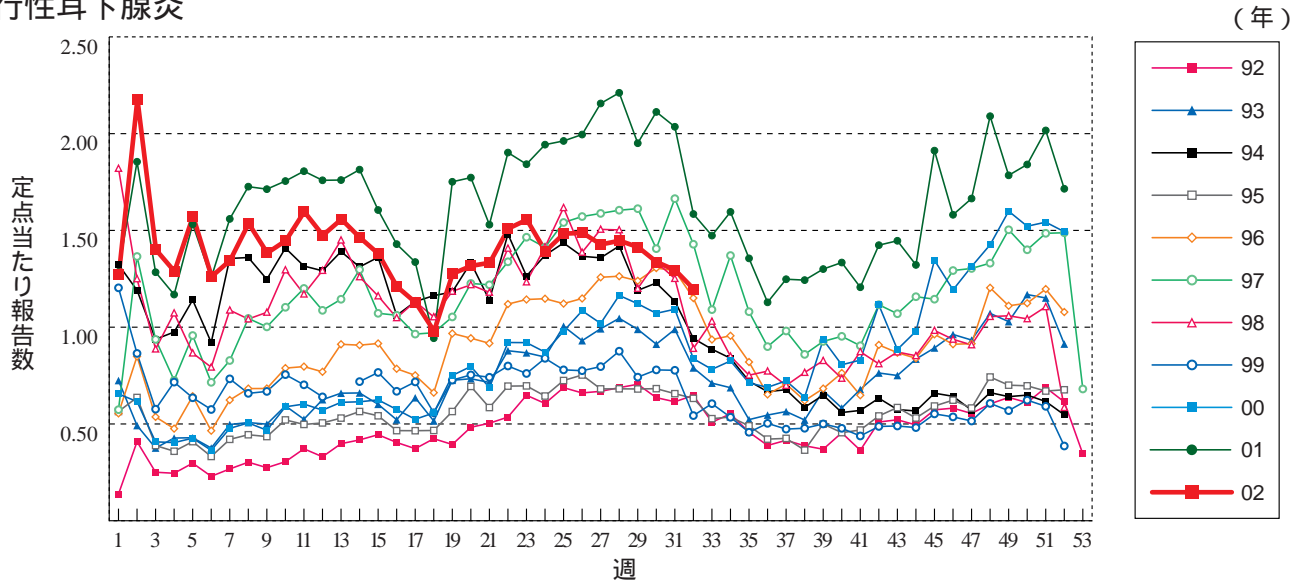
ヘルパンギーナ



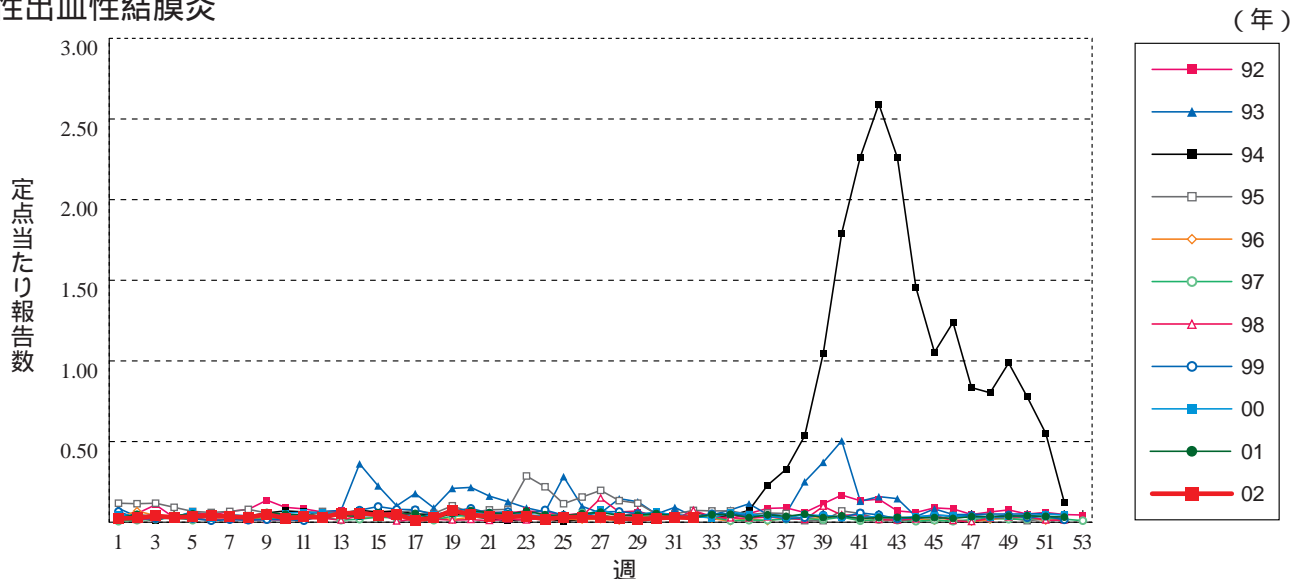
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



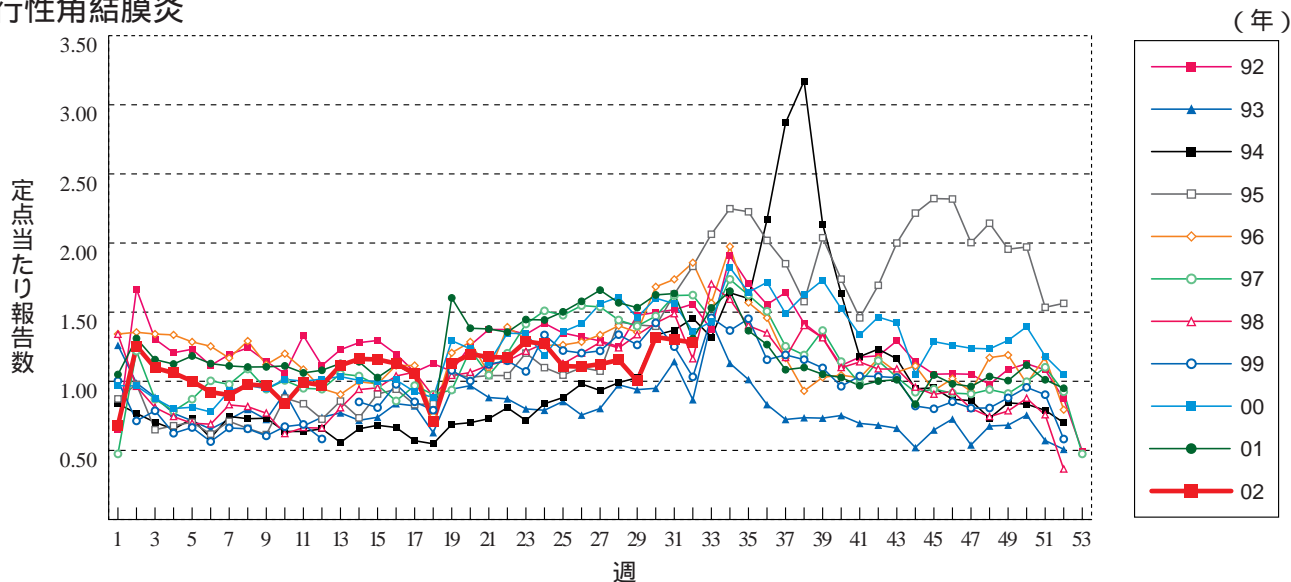
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

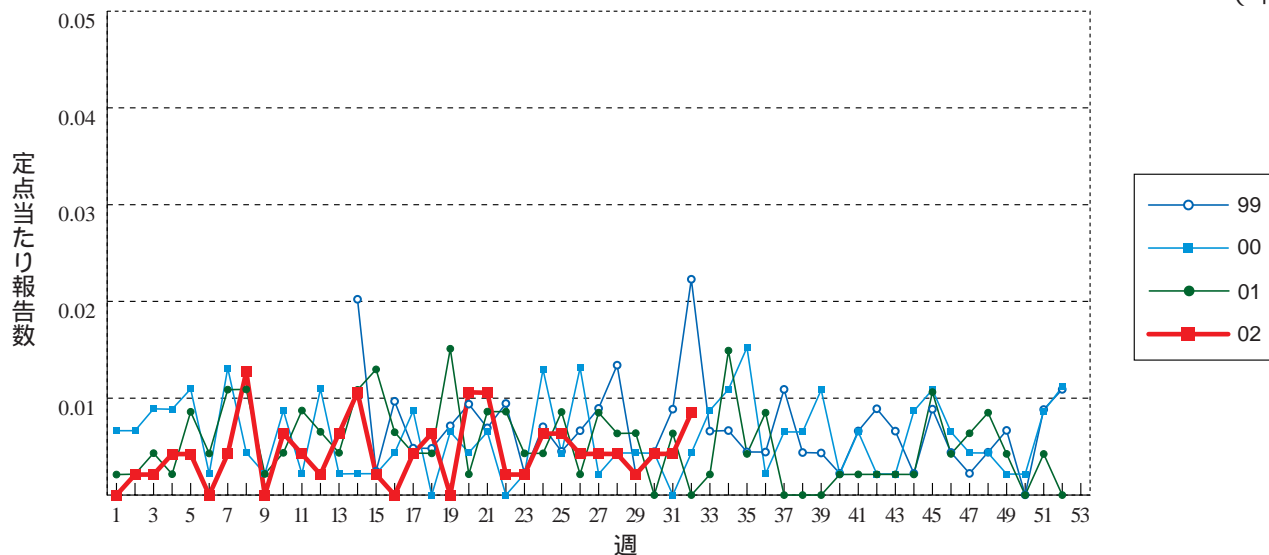


流行性角結膜炎



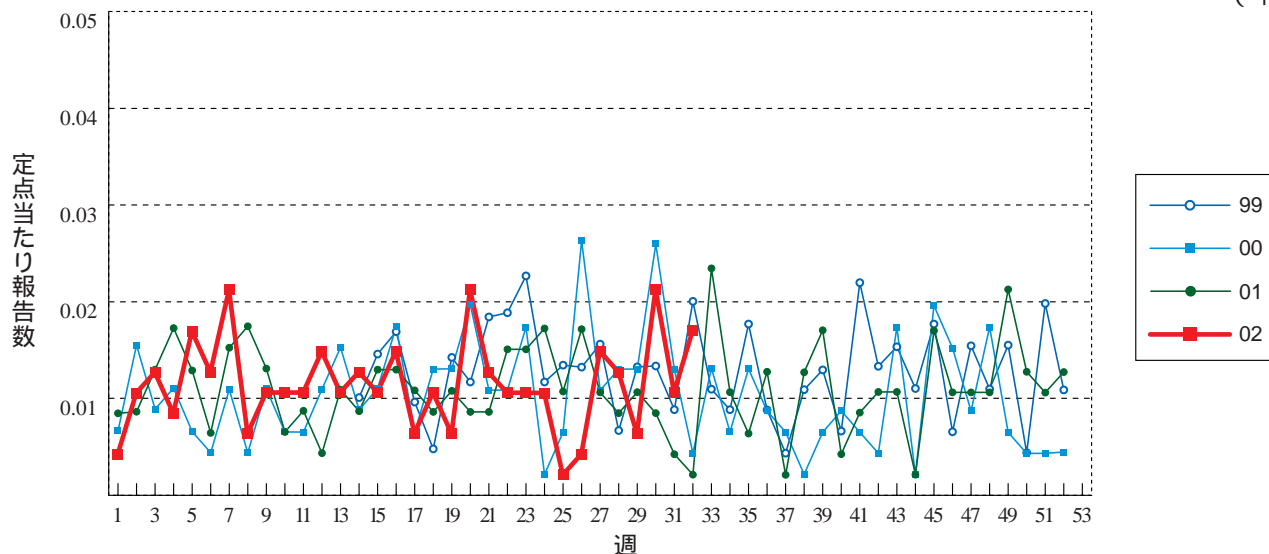
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



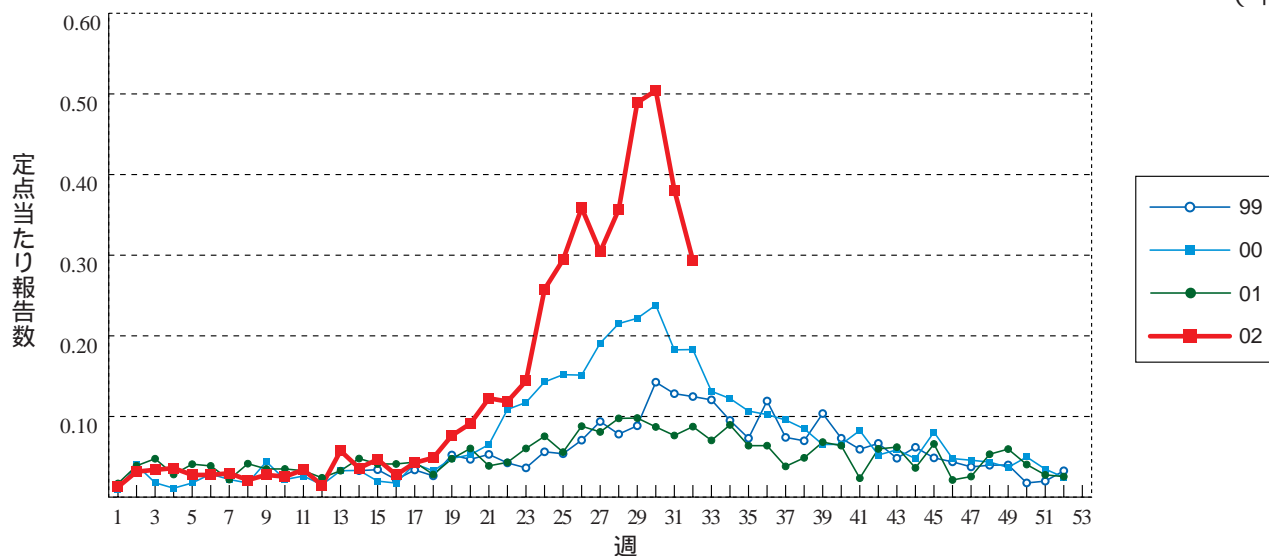
細菌性髄膜炎

(年)



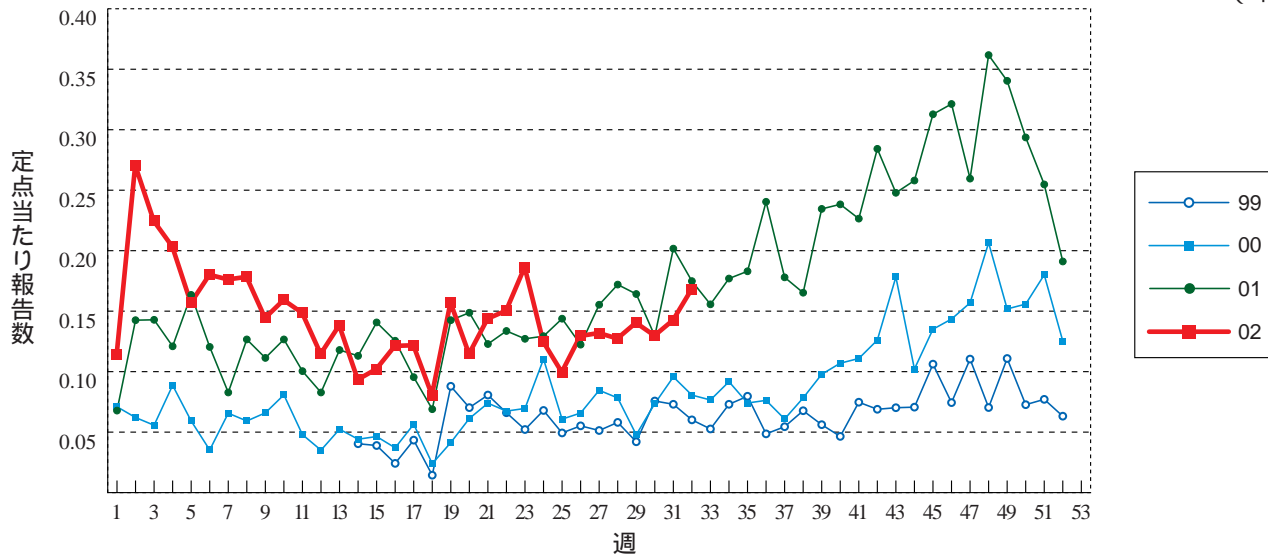
無菌性髄膜炎

(年)



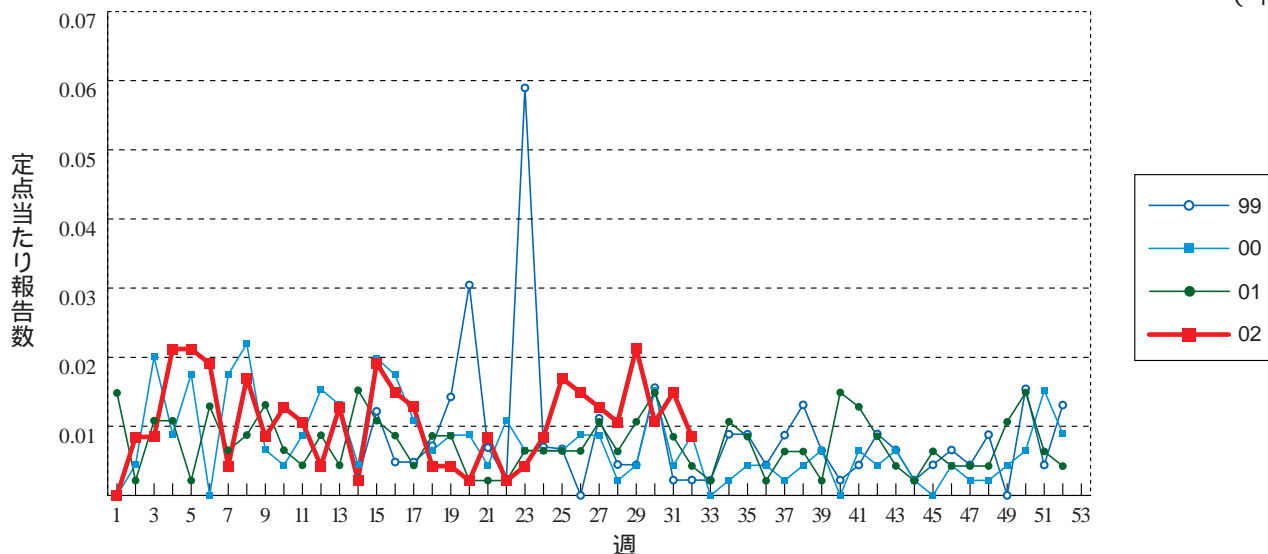
マイコプラズマ肺炎

(年)



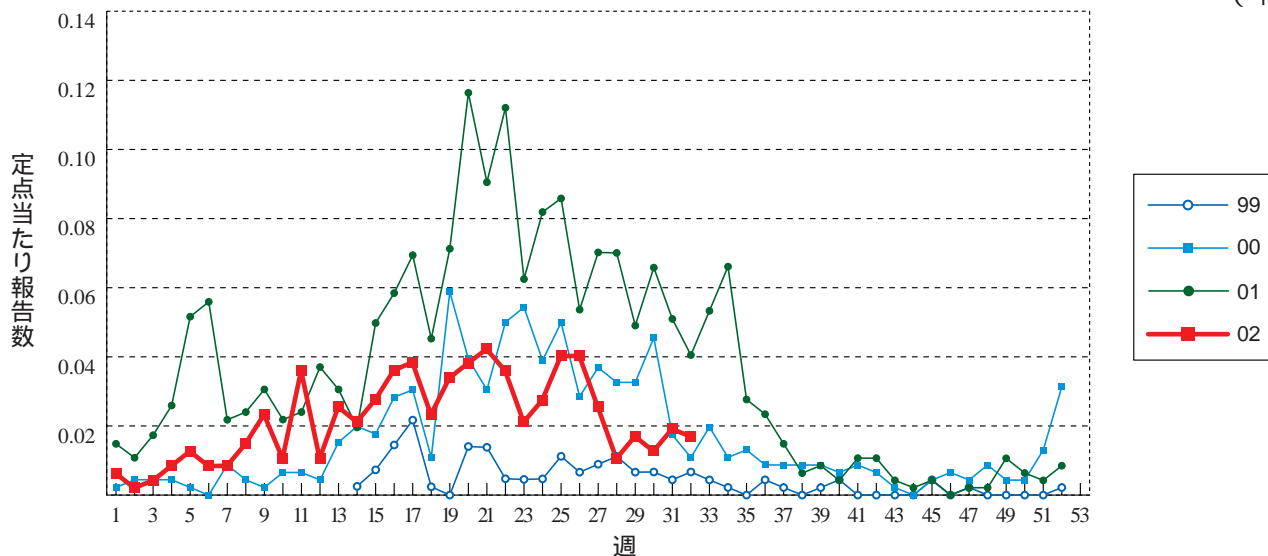
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





32週のデータ

注)表中の報告数は8月15日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年32週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	33	9	454	2	41	-	22
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	16	-	1	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	6	-	70	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	12	5	52	-	18	-	9
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	22	-	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	12	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	1	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	23	-	3	-	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	4	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年32週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	140	1745	8	270	-	5	-	-	-	44	-	-	6	674
北海道	-	-	-	-	4	85	-	12	-	4	-	-	-	3	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	11	77	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	4	42	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
秋田県	-	-	-	-	2	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	-	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
茨城県	-	-	-	-	1	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
栃木県	-	-	-	-	10	19	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	2	25	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
埼玉県	-	-	-	-	6	34	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
千葉県	-	-	-	-	6	107	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39
東京都	-	-	-	-	7	100	2	63	-	-	-	-	-	2	-	-	1	127
神奈川県	-	-	-	-	1	59	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
新潟県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	2	25	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	3	48	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	4	19	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
山梨県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	20	76	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	9
岐阜県	-	-	-	-	2	10	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	17
静岡県	-	-	-	-	1	26	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	18
愛知県	-	-	-	-	4	57	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36
三重県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	2	6	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	3	40	1	10	-	-	-	-	-	2	-	-	-	17
大阪府	-	-	-	-	11	140	-	41	-	-	-	-	-	3	-	-	-	44
兵庫県	-	-	-	-	6	133	1	16	-	-	-	-	-	2	-	-	-	37
奈良県	-	-	-	-	-	20	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
和歌山県	-	-	-	-	3	14	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	3	22	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	4	58	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	1	15
広島県	-	-	-	-	-	29	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	-	13
山口県	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	1	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
愛媛県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
高知県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	4	84	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	25
佐賀県	-	-	-	-	2	127	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	1	26	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	1	40	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮崎県	-	-	-	-	3	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鹿児島県	-	-	-	-	4	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
沖縄県	-	-	-	-	-	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年32週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	33	-	-	-	104	2	81	1	63	9	526	-	2	3	73	-	-
北海道	-	1	-	-	-	34	-	2	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	1	12	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	3	-	15	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	5	-	25	-	-	-	4	-	-
東京都	-	27	-	-	-	2	-	6	-	8	3	210	-	-	1	35	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	1	34	-	-	-	6	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	7	-	-	-	2	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	13	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	6	1	32	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	7	-	-	-	4	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	1	6	-	-	2	55	-	1	1	6	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	-	4	-	4	-	10	-	-	1	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	5	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年32週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	5	-	-	-	-	1	115	2	34	1	8	-	-	-	-	7	332
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14
青森県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	10	-	-	-	-	-	-	-	32
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	16
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	17
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	4	69
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	17
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
広島県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大分県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	3	-	-	-	-	1	3
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年32週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	58	-	24	-	-	-	-	-	1	-	-	1	48	1	8	10	86
北海道	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
山形県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
福島県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	4	
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	
栃木県	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
東京都	-	4	-	6	-	-	-	-	1	-	-	1	14	-	1	-	9	
神奈川県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
愛知県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2	
大阪府	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	1	8	
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
福岡県	1	2	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
鹿児島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年32週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	27	0.01	690	0.23	1093	0.36	6431	2.14	2592	0.86	3625	1.20	663	0.22	2459	0.82	27	0.01
北海道	4	0.02	13	0.09	51	0.35	173	1.19	237	1.63	204	1.41	31	0.21	98	0.68	-	-
青森県	-	-	6	0.14	9	0.21	45	1.07	74	1.76	93	2.21	41	0.98	31	0.74	-	-
岩手県	-	-	-	-	7	0.18	31	0.82	26	0.68	84	2.21	1	0.03	19	0.50	-	-
宮城県	-	-	1	0.02	7	0.12	155	2.63	66	1.12	114	1.93	8	0.14	54	0.92	-	-
秋田県	-	-	10	0.29	4	0.11	59	1.69	19	0.54	34	0.97	6	0.17	19	0.54	1	0.03
山形県	-	-	2	0.07	13	0.43	45	1.50	44	1.47	35	1.17	6	0.20	34	1.13	-	-
福島県	-	-	9	0.20	11	0.24	113	2.46	64	1.39	85	1.85	17	0.37	39	0.85	-	-
茨城県	-	-	8	0.11	18	0.24	133	1.80	45	0.61	61	0.82	26	0.35	33	0.45	-	-
栃木県	-	-	8	0.17	17	0.37	81	1.76	54	1.17	23	0.50	16	0.35	37	0.80	-	-
群馬県	-	-	10	0.16	24	0.39	99	1.60	44	0.71	30	0.48	30	0.48	40	0.65	-	-
埼玉県	1	0.00	38	0.26	55	0.38	297	2.03	167	1.14	151	1.03	30	0.21	127	0.87	1	0.01
千葉県	-	-	20	0.16	38	0.30	254	2.00	109	0.86	90	0.71	28	0.22	94	0.74	2	0.02
東京都	-	-	28	0.20	12	0.08	190	1.34	61	0.43	101	0.71	19	0.13	70	0.49	-	-
神奈川県	-	-	65	0.32	55	0.27	305	1.49	108	0.53	248	1.21	63	0.31	179	0.87	4	0.02
新潟県	-	-	15	0.25	23	0.38	157	2.62	68	1.13	55	0.92	25	0.42	57	0.95	-	-
富山県	-	-	2	0.07	24	0.83	82	2.83	24	0.83	80	2.76	6	0.21	26	0.90	-	-
石川県	-	-	6	0.21	7	0.24	108	3.72	27	0.93	45	1.55	5	0.17	24	0.83	-	-
福井県	-	-	15	0.68	6	0.27	125	5.68	33	1.50	3	0.14	3	0.14	19	0.86	1	0.05
山梨県	2	0.05	7	0.28	5	0.20	31	1.24	13	0.52	2	0.08	-	-	9	0.36	-	-
長野県	-	-	23	0.43	26	0.48	187	3.46	53	0.98	47	0.87	23	0.43	39	0.72	-	-
岐阜県	-	-	19	0.40	12	0.26	46	0.98	72	1.53	62	1.32	8	0.17	31	0.66	-	-
静岡県	-	-	24	0.28	24	0.28	212	2.47	41	0.48	95	1.10	27	0.31	99	1.15	-	-
愛知県	-	-	27	0.15	61	0.34	253	1.39	135	0.74	306	1.68	34	0.19	132	0.73	4	0.02
三重県	-	-	16	0.36	16	0.36	165	3.67	60	1.33	54	1.20	21	0.47	59	1.31	-	-
滋賀県	-	-	20	0.63	4	0.13	27	0.84	11	0.34	43	1.34	1	0.03	17	0.53	-	-
京都府	-	-	14	0.18	15	0.20	222	2.92	46	0.61	50	0.66	7	0.09	48	0.63	2	0.03
大阪府	-	-	48	0.25	111	0.57	309	1.58	135	0.69	248	1.27	32	0.16	139	0.71	3	0.02
兵庫県	-	-	37	0.29	33	0.26	297	2.32	142	1.11	183	1.43	25	0.20	121	0.95	3	0.02
奈良県	-	-	1	0.03	8	0.23	72	2.06	43	1.23	87	2.49	6	0.17	21	0.60	-	-
和歌山県	-	-	2	0.06	13	0.42	39	1.26	29	0.94	99	3.19	8	0.26	31	1.00	1	0.03
鳥取県	-	-	6	0.32	9	0.47	103	5.42	15	0.79	114	6.00	15	0.79	28	1.47	-	-
島根県	-	-	1	0.04	1	0.04	36	1.57	12	0.52	12	0.52	4	0.17	13	0.57	-	-
岡山県	-	-	2	0.05	11	0.25	108	2.45	36	0.82	178	4.05	11	0.25	37	0.84	2	0.05
広島県	-	-	36	0.49	21	0.28	185	2.50	42	0.57	174	2.35	2	0.03	75	1.01	1	0.01
山口県	-	-	7	0.14	60	1.22	152	3.10	41	0.84	35	0.71	10	0.20	74	1.51	-	-
徳島県	-	-	-	-	8	0.35	41	1.78	26	1.13	20	0.87	4	0.17	19	0.83	-	-
香川県	-	-	4	0.13	7	0.22	70	2.19	14	0.44	52	1.63	5	0.16	28	0.88	-	-
愛媛県	-	-	7	0.18	19	0.49	119	3.05	34	0.87	48	1.23	8	0.21	29	0.74	1	0.03
高知県	-	-	9	0.29	13	0.42	59	1.90	20	0.65	39	1.26	2	0.06	21	0.68	-	-
福岡県	2	0.01	62	0.52	71	0.59	409	3.41	86	0.72	36	0.30	9	0.08	124	1.03	1	0.01
佐賀県	-	-	8	0.35	29	1.26	27	1.17	17	0.74	5	0.22	6	0.26	35	1.52	-	-
長崎県	-	-	1	0.02	18	0.41	89	2.02	10	0.23	9	0.20	8	0.18	23	0.52	-	-
熊本県	-	-	22	0.45	38	0.78	146	2.98	47	0.96	6	0.12	9	0.18	36	0.73	-	-
大分県	1	0.02	4	0.11	25	0.69	155	4.31	39	1.08	8	0.22	2	0.06	46	1.28	-	-
宮崎県	-	-	13	0.35	23	0.62	213	5.76	33	0.89	8	0.22	8	0.22	55	1.49	-	-
鹿児島県	6	0.06	13	0.22	25	0.42	166	2.77	39	0.65	33	0.55	5	0.08	57	0.95	-	-
沖縄県	11	0.19	1	0.03	6	0.18	41	1.21	31	0.91	36	1.06	2	0.06	13	0.38	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年32週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	34	0.01	5993	1.99	167	0.06	3602	1.20	17	0.03	803	1.28	4	0.01	8	0.02	138	0.29
北海道	1	0.01	214	1.48	2	0.01	80	0.55	-	-	28	0.97	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	292	6.95	3	0.07	97	2.31	-	-	9	0.82	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	101	2.66	-	-	139	3.66	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	195	3.31	5	0.08	163	2.76	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	131	3.74	-	-	94	2.69	-	-	18	2.57	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	69	2.30	1	0.03	77	2.57	-	-	1	0.13	-	-	1	0.10	3	0.30
福島県	1	0.02	181	3.93	9	0.20	127	2.76	1	0.08	12	1.00	-	-	-	-	3	0.43
茨城県	-	-	38	0.51	9	0.12	56	0.76	-	-	80	5.00	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	72	1.57	2	0.04	122	2.65	-	-	13	1.08	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	165	2.66	2	0.03	57	0.92	1	0.07	108	7.71	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.01	314	2.15	13	0.09	133	0.91	-	-	50	1.56	-	-	-	-	3	0.33
千葉県	1	0.01	201	1.58	18	0.14	97	0.76	2	0.06	30	0.91	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	153	1.08	6	0.04	72	0.51	-	-	27	1.93	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	5	0.02	313	1.53	8	0.04	111	0.54	-	-	32	0.78	-	-	-	-	4	0.36
新潟県	-	-	163	2.72	1	0.02	152	2.53	1	0.11	9	1.00	-	-	-	-	15	1.25
富山県	-	-	84	2.90	-	-	39	1.34	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	30	1.03	-	-	25	0.86	-	-	12	1.71	-	-	-	-	1	0.20
福井県	2	0.09	30	1.36	-	-	18	0.82	-	-	1	0.33	-	-	-	-	3	0.50
山梨県	-	-	36	1.44	3	0.12	37	1.48	-	-	-	-	-	-	-	-	7	0.70
長野県	1	0.02	249	4.61	5	0.09	57	1.06	-	-	20	2.00	-	-	1	0.09	2	0.18
岐阜県	-	-	141	3.00	9	0.19	53	1.13	-	-	7	0.64	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	162	1.88	9	0.10	86	1.00	-	-	15	0.75	-	-	-	-	1	0.10
愛知県	5	0.03	327	1.80	23	0.13	130	0.71	2	0.06	11	0.31	-	-	2	0.15	17	1.31
三重県	-	-	183	4.07	-	-	39	0.87	1	0.08	8	0.67	-	-	-	-	3	0.33
滋賀県	1	0.03	83	2.59	2	0.06	39	1.22	-	-	2	0.29	-	-	-	-	6	0.86
京都府	-	-	205	2.70	-	-	41	0.54	1	0.06	13	0.72	-	-	-	-	2	0.33
大阪府	3	0.02	384	1.97	11	0.06	100	0.51	2	0.04	48	0.92	-	-	1	0.07	2	0.13
兵庫県	-	-	316	2.47	5	0.04	168	1.31	1	0.03	36	1.00	-	-	-	-	4	0.31
奈良県	-	-	42	1.20	-	-	56	1.60	-	-	5	0.56	1	0.17	-	-	3	0.50
和歌山県	-	-	107	3.45	1	0.03	71	2.29	-	-	3	0.75	1	0.09	-	-	5	0.45
鳥取県	-	-	28	1.47	-	-	62	3.26	1	0.33	3	1.00	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	8	0.35	1	0.04	36	1.57	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	2	0.05	25	0.57	5	0.11	100	2.27	-	-	11	1.38	-	-	-	-	11	2.75
広島県	-	-	81	1.09	2	0.03	119	1.61	-	-	24	1.20	-	-	1	0.05	13	0.62
山口県	-	-	58	1.18	-	-	44	0.90	-	-	10	1.11	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	32	1.39	-	-	32	1.39	1	0.25	6	1.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	34	1.06	-	-	23	0.72	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	36	0.92	-	-	39	1.00	-	-	12	1.71	-	-	1	0.17	3	0.50
高知県	-	-	86	2.77	-	-	11	0.35	-	-	10	3.33	1	0.13	-	-	2	0.25
福岡県	6	0.05	187	1.56	4	0.03	123	1.02	-	-	63	2.42	-	-	-	-	2	0.13
佐賀県	-	-	16	0.70	-	-	21	0.91	-	-	6	1.50	-	-	-	-	4	0.67
長崎県	-	-	27	0.61	-	-	96	2.18	3	0.38	6	0.75	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	104	2.12	-	-	10	0.20	-	-	6	0.67	-	-	-	-	10	0.67
大分県	1	0.03	98	2.72	2	0.06	95	2.64	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	114	3.08	4	0.11	98	2.65	-	-	11	2.75	-	-	-	-	3	0.43
鹿児島県	-	-	73	1.22	2	0.03	110	1.83	-	-	4	0.67	1	0.08	1	0.08	1	0.08
沖縄県	1	0.03	5	0.15	-	-	47	1.38	-	-	9	0.90	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年32週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	79	0.17	4	0.01	8	0.02
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.08	-	-	-	-
秋田県	3	0.38	-	-	-	-
山形県	1	0.10	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.22	-	-	-	-
千葉県	2	0.15	2	0.15	1	0.08
東京都	1	0.04	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	14	1.17	-	-	3	0.25
富山県	2	0.40	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	1	0.10	-	-
長野県	-	-	1	0.09	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	-	-
愛知県	2	0.15	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	4	0.27	-	-	-	-
兵庫県	5	0.38	-	-	-	-
奈良県	2	0.33	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.50	-	-	-	-
広島県	8	0.38	-	-	-	-
山口県	1	0.13	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	3	0.20	-	-	-	-
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	1	0.07	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.29	-	-	-	-
鹿児島県	4	0.33	-	-	1	0.08
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第32号 平成14年8月23日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。